

令和4年度第3回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和5年3月9日(木) 午後2時30分～午後4時00分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館4階 4-4会議室

出席委員 中條、花田、田口、濱口(美)、松葉、岩崎、濱口(恵)、
下野、奥村、北川、宮崎、中川、江原

事 務 局 健康福祉部

- ・参事 岩佐
- ・子育て応援課 副参事 坂本、子育て応援係長 西川、
こども育成係長 福田、山本
- ・保育課 課長 堀川、課長補佐 濱地、保育係長 奥本
- ・健康課 母子保健係長 北口
- ・生活支援課 課長 濱口
- ・こども発達支援室 主幹 奥田

教育委員会事務局

- ・教育総務課 課長 前村、中井
- ・学校教育課 指導主事 浅井
- ・社会教育課 課長補佐 阿部

議 題

- (1) 就学前の子どもの教育・保育についての令和4年度の取り組み状況について
- (2) (特定)教育・保育施設の利用定員・確保策について
- (3) その他

・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

- 2④の「幼稚園・保育園で実施した」など「こども園」が抜け落ちることがある。こども園が入っている場合は正確に表記していただきたい。
→ 大変失礼しました。今後気を付けます。
- 2④の「幼稚園・保育園」にこども園は入るのか。
→ 認定こども園も対象となっている。
- 巡回相談について、支援に至るまでの道筋を教えてください。また、2「相互交流」の内容やねらい、成果はどんなものか。
→ 巡回相談については、学校教育課とこども発達支援室が連携し行っている。学校教育課を通じては、特別支援学校と教員の相談に来ていただいて、専門的な立場から学校や園での支援について相談していただいている。こども発達支援室では、巡回相談員を置いて、園での困り感など子どもたちに寄り添ったかたちで相談などを行っているほか、全園で5歳児発達支援事業を行っている。お子さんを観察したり保護者や先生から問診票をもらい、心配なお子さんがいれば就学に向けたサポート相談会を開催し、1年間かけて支援する。また、健康課とも連携しながら、園や保護者からの相談を受けている。
→ 相互交流については、普段の日の保育・教育活動の様子を先生方に体験していただく。就学前施設の先生については、受け入れを申し出ていただいた園の中から訪問先を決めていただくが、近隣の園を選ばれることが多く、同じ小学校へ入学する子どもたちを見据えて選ばれているようである。小学校教員については、夏季休業中を利用して近隣の園を訪問している。普段の保育の様子を見せてもらい、小学校とのちがいやスムーズな接続に向けて考えたり、入学を控えた5歳児のお子さんについて見させてもらったりするという目的がある。
- 延べ人数が書いてあるが、評価できる人数なのか、どのようにお考えか。
→ 小学校との交流については、もう少し人数を増やしていきたい。教育振興基本計画にて、令和8年度に10校という目標を掲げている。コロナ禍で減少していたが、徐々に回復しており今年度も昨年度より増えている。いろいろなかたちを検討しながら増やしていきたい。

● 観察をして意見交換をすることが中心と考えていいか。

→ はい。一緒に保育・教育に入っていて、体験をしながら意見交換も行う。その他にも、入学前の3月になると、園と小学校が連絡を取り合って引継ぎを行っている。

● 4 特別支援教育における支援体制整備の促進について、5 歳児健診も入っているのか。

→ 医療的な立場ではないので、健診ではなく、発達支援を行っている。また医療の先生方にも相談させていただき、ご意見をいただければと思う。

【事務局より】

議題（2）について説明（資料2-1）

● 定員を増やすことに関して、規定上は問題ないと思うが、設備や人員などの問題もクリアしていると考えてよいか。

→ はい。常盤幼稚園について、2年前に減らした定員数が元に戻るくらいの数字なので問題ない。

議題（2）について説明（資料2-2）

● 1 ページの1号認定について、2歳児の欄に数字が入っているのは、満3歳児クラスがある園か。

→ はい。

● 3 ページについて、保留にはなっていないが、第一子と第二子のお子さんが別々の園へ通っている家庭を把握しているか。

→ そういった家庭があることは把握している。新年度の際に転園を希望される方もいる。

● 保留されている方は、きょうだいと同じ園へ通わせたい要望があったり、第一子であれば自宅から遠いなどの理由があるかと思う。通わせたい園へ通わせられない不安は、出産や子育て世帯の移住の大きなハードルになると思うので、対策が必要。

→ 上の子がすでに入園しており下の子も同じ園を希望される場合、点数を加点し同じ園へ入りやすいよう利用調整をしている。しかしながら、どうしても別々のところにしか入れない方がいるのも現状。

その他

● 2点お願い。1点目は、支援が必要なお子さんのことについて。前回は発言したが、伊勢市では相談機関や支援機関が充実している反面、支援の必要なお子さんにあたって

いる現場への支援が、まだまだ不十分。また、こども園の場合は、支援の補助申請が1号認定と2号3号認定によって異なり、基準もちがうので大変苦慮している。お子さんの数は減っているにも関わらず、支援の必要なお子さんの割合は上がっている。日々、職員は苦勞しており、もっと現場にお金や人手の支援をしていただきたい。

2点目は、この会議は子育て支援を議論する場と思っているが、今一番問題なのは少子化。うちのこども園でも来年度は定員を割る見込みで存続の危機に面している。伊勢市子ども・子育て支援事業計画（以下、「子育て計画」という。）に出生率に関する記載はないと思うが、少子化対策を計画に入れることはできないのか。

→ 令和5～6年にかけてこの会議でご意見をいただきながら第3期子育て計画を策定していく。国の方で、こども家庭庁やこども基本法やこども大綱などが作られることを踏まえ、市としても現在の子育て計画を包含する計画を作らなければいけない方向が見えてきているので、協議・検討していきたい。また、市では、まち・ひと・しごとという会議で少子化対策に向け議論いただいている。

● 少子化対策について、それぞれ専門の会議で議論されているということだが、会議同士連携をとれるといい。例えばこの会議では、少子化対策について他でこういう議論がされていると事務局から情報を得て、「こういった施設があると子育てしやすい」と提案するなど、一体的に考えられるとよいのでは。

→ 市計画の大元となる「伊勢市総合計画」があり、その下に、子育て計画も含め様々な計画がある。少子化対策は大きなテーマであるので、全体的に横櫛を通しながら取り組まないといけない。他でどんな計画を持ってどんな対応をしているのか、次の会議でご紹介させていただくというのはいかがでしょうか。

→ 子ども・子育て支援法に基づく保育園や子育て支援センターや乳幼児訪問、学童などさまざまなサービスの量や方向性を決めるのが子育て計画となっており、少子化対策として子どもに必要なものを決めていく。こども家庭庁ができるとまた変わってくるかもしれないが、総合計画で出会いや移住の問題などに取り組んでいるので、またご説明する。

● 他市町でも、補助金など様々な取り組みをし、子どもの数が増えているところがある。伊勢市は少子化対策専門の部署がないのも大きな問題。

● 昔はこの会議でも少子化や特殊出生率が話題になったが今はその言葉が出ないので、この会議の目的は市の子育て支援の満足度を上げることだと思っている。子育てしやすい環境を作ることによって、出生率の増加に繋げる。個人的な意見としては、市では少子化対策は難しいので、この会議では子育てしやすい環境を作り満足度を上げる方向性でよいのではと考える。

● 男女共同参画審議会でも少子化対策について議論しているが、そこから大きなものには

ならない。横のつながりを深めていくシステムがあってもいいのでは。

- 会議体はそれぞれがテーマを持っているので、ここでは満足度をあげてというのも一つの考え方であるし、根本の「第一子を」というのもある。ここだけは決められないので、他の会議とうまく繋げ広めていくシステムが構築されていくと良い。一番大事なのは、市民の認知。ここにいるメンバーはいろいろな資料を見ていてわかっているが、市民の皆さんにどのように届けていくかということが大事。
- 駅前施設の期待度は高い。発達支援というか、将来、困り感を持つと思われるでこぼこを持ったお子さんが増えている。そういったお子さんが困らず生活ができるかは、環境や周囲の受け入れ方によって変わる。家族が子どもの障がいを受け入れられるよう、支援は早くした方がいい。ただ、保育現場の悲鳴というのもよくわかる。そこは環境を構造化していくとか、専門的な発達支援の提供をしてもらいたい。子どもが一番悲鳴を上げている。
- 誤解を招くといけないので説明するが、支援が必要なお子さんが増えているので人手等がほしいという話は、支援が必要な子のためだけでなく、全体のお子さんのためにもっといろいろな教育・保育をしたいのに、支援の必要なお子さんの安全のため目が離せない、他の子にもしてあげたいことが十分にできないというジレンマを職員が抱え大変な思いをしているということ。すべての子どもの健やかな成長を願っており、そのためにはもっと人手とお金がいる。
- まずはマッチング。今は社会的不安から結婚に魅力を感じられず結婚しない人が多いと思う。他市では市が主催して出会いの場を用意したり、高齢者から反対されつつも子ども支援の予算に重点を置いたことで移住者が増えて税収が増加し、高齢者施策も充実する良循環となっている。まずはなぜ結婚しないのかを考えないといけないのでは。
- 認知度は低いかもしれないが、伊勢市でもいせ出会い支援センターを設置し、イベントや相談などを行っている。結婚しない理由としては、収入などいろいろな理由があると思うが、ここでは子育てしやすい環境を作っていく、商工では働きやすい環境を作っていくなど、いろいろな部署で取り組んでいく必要がある。

【事務局より】

委員任期満了のお礼、議事録公開の説明